

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 2年 2月28日

事業所名 心きらきら児童デイサービス事業所

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		個別療育に関しては、個室スペースを利用し、集団療育に関してはホール等を利用して療育を実施しています。	子どもの特性及び発達に応じた指導訓練での療育が行えるようにしていきます。
	2	職員の配置数は適切である	○		専門性を有した職員を配置しています。(保育士、言語聴覚士、音楽療法士、心理士、教員等)	今後は配置数に加え、非常勤従業員を加え、サービスの質を高めたいと思います。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		建物自体を子どもの目線で設計、建設してあります。また子供が視覚的に分かりやすいように絵カードなどで配慮しています。	建物が2階建てとなっている為、療育時の情報伝達手段を獲得したいと考えています。1階2階間での連絡手段の確保に努めていきたいと思っています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		改善計画を作成し、それに伴う振り返りを行っています。	事業所が一体となって支援の質の向上を図る事ができるように職場環境を作ります。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		保護者様の意見を伺えるように定期的にアンケートを作成して実施しています。	保護者様に対してなぜアンケートを行うのかの理由を詳しく説明することでより詳細な意見を聞けるかと思っています。それをもとに更に業務改善につなげていきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		H30.4~ホームページ上で公開させて頂いています。	事業所の自己評価結果を公開する事により事業運営の改善を図ることに努めていきたいと思っています。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		他業種の第三者を入れることにより見る視点を変えています。	児童民生委員の方などの意見も参考に業務改善に繋げていきます
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		研修時に業務の見直しを行うようにしています。	不必要な業務が多くなるように配慮しています。又、職員の資質向上を図るために研修会への参加、勉強会を実施できるように考えていきます。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		子どもの特性に合わせた独自の評価を行っています。	専門用語だらけにならないよに保護者様にわかりやすい形で提示できるように心がけています。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		アセスメントを行い具体的な支援を行っています。	評価したツールをもとに親御様とお話し合いの上、今後の支援につなげていきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		個別活動、集団活動と各チームでプログラムを立案しています。	活動プログラムは各担当者や他職種職員と意見を出し合い各チームがプログラム化出来るように進めています。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		子どもの発達、特性に合わせてプログラムを変えていけるようにしています。	子どもの興味、関心が引き出せるように活動内容を変更していけるように考えています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		子どもの特性に合わせた支援が行えるようにしています。	長期休暇時などにおいては、生活リズムが崩れないように時間帯の設定などの配慮しております。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		アセスメントにおいて、子どもの状況を判断し個別、集団療育へプログラムを作成します。	より個別、集団療育で行う療育の意義を高めるために、子どもの発達特性把握に努めたいと考えています。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		当日の朝のミーティングを行い確認を行っています。	目標の確認なども合わせて行えるようにしていけるように検討しています。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		終了後、支援内容で気づいた点等の話し合いを行っています。	定期的に他職種職員の意見も聞ける時間を取り入れ、より良い療育支援に繋げるよう有意義な場としていきたいです。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援記録を記入し、子どもの状況を把握し、療育に繋がっています。	記録内容を見直し、より状態の把握が行いやすいように用紙の改善などを行っています。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを実施しています。	他事業所のご意見や利用計画書などの見直し材料を用いて見直しを行っています。
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	○		アセスメント後、子どもの状況を判断しその子どもに見合った活動が行えるようにプログラムを組んでいます。	より療育の意義を高めるために子どもの発達特性把握に努めたいと考えています。

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		担当者が事前に児童についての振り返りを行い、療育情報を提供しています。	担当者が会議に参加することが好ましいが通常業務を考慮すると現段階では困難である。今後の改善課題としてあげていこうと考えています。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校の先生方にも療育場面を見学して頂いています。	子どもへの支援の方法や、留意点など情報を学校と連携し、療育における効果に繋げていきたいと思ひます。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている				
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		就学前に利用していた園などにおいて情報の共有を求め、よりよい支援に繋がるように心がけています。	また、他の事業所などにおいても連携の強化を図っていきます。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○			適切な支援が引き継がれていくよう情報提供ができるようにしていきます。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		モニタリングにて情報共有し研修時には参加できるようにしています。	新規のお子様の場合などは電話などで情報共有を行えるように心がけています。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○			地域での活動等にも今後連携をとれるように課題とさせていただきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			地域の子育て会議などへの参加を目標とし、改善課題とさせていただきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		独自のプログラムを作成し療育内容を共有できるように行っています。	療育内容をわかりやすく伝え、課題への共通理解として認識できるように継続的な課題としていきたい。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		療育後に保護者様と話す時間を設け、方向性や工夫点などを伝達できるようにしています。	保護者様との時間を調整することが困難な場合がありますので柔軟に対応できるように調整等で改善できる点を行っていきたく思ひます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		利用開始時に説明を行っています。随時質問もして頂きます。	不明確な部分がないように説明の仕方や内容に工夫をしていきたいと考えています。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		定期的に保護者様への声かけをし将来への不安に専門的な援助を行い、支援を行っています。	悩みを伝えにくい保護者様へのケアを含め日常的な事から悩みを引き出せるようにしています。継続的に会話をする機会を作っていきたいと思ひます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		保護者会は年2回開催しています。そこで悩みを持つ保護者様同士の交流を支援しています。又、保護者様の勉強会、分かち合いの会「やまびこ会」を奇数月の第三土曜日に開催しています。	保護者同士の連携を支援できる機会、連携をサポートしていきます。保護者会などで話をしてくれる保護者様を作っていくようなフォローアップを行っていきたく思ひます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		第三者委員会を設置し問題に対して対応できるように対策をしております。	相談や申し入れがあった際は迅速に対応し、ミーティングなどで課題としてあげさせて頂き、対応や検討課題として情報の共有、認識ができるようにしていきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		ホームページで見ることが出来るようにしています。活動報告書は掲示板に掲示しております。	詳細な情報が均等に行き渡るように声かけなどを周知徹底できるように努めます。
	35	個人情報に十分注意している	○		個人情報に関する書類の管理は徹底して行っています。	個人名が記載されたものに関してはシュレッダー処分させて頂いております。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		口頭での情報伝達に加え書面での情報伝達も行っています。	保護者様と情報共有や状態把握が出来るように努めています。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○		年に1度地域住民の方々を招待し音楽祭を行っています。	事業所と地域が結びついたイベントなどを計画立案出来るように今後の改善課題とさせていただきます。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○	各マニュアルを策定し、発生を想定した訓練を定期的に行っています。	利用児童も含めた訓練と地域を含め訓練を実施できればと考えています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	避難訓練を含め想定されるべき必要な訓練を行なっています。	訓練は対応方針について理解し設定された役割を実行出来るよう指導していきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	どういった事が虐待となるのか、虐待の定義について認識がもてる研修会を行っています。	外部の研修会などにも参加し見識を深めていきたいと考えています。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○	移動時など安全面上で確認必須の条件となり得るため、事前に保護者様への確認を徹底して行っています。	自傷他害の恐れがあり、身体拘束の必要性がある場合において保護者様との確認を行い、必要性がある場合、同意書を作成し保護者様のご理解、ご協力が得られるようにしていきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	アレルギー状況の確認は事前評価で行っています。	指示書の確認やアレルギーへの対応方法を保護者様へ確認し、対応策の検討を事前にできるように継続した課題としていきます。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	ヒヤリハットを事業所内で作成し情報の共有が出来るようにしています。	ヒヤリハットの報告会なども今後は検討しています。またヒヤリハットが起こった際は、事業所内での連絡、報告など義務化しています。